

ミュージシャンだったのに

岩って面白い、から岩一筋

北山真さん

「日本の岩場」の編者として、全道府県にフリークライミングのルーツを開拓を完了したばかりでなく、ワールドカップなど、スポーツクライミングの大会運営にも関わっている。この北山真さんにも、岩場の保全活動にも交えて、お話を伺いました。



(インタビューと文：張晶子)

◆ どんな子ども時代をすごしましたか？

一 両親がクラシック派でしたので、宇都宮少年少女合唱隊に入っていました。走るのもイヤ、球技も苦手な体育嫌いな子どもでした。

6年生の時にビートルズに出会って衝撃を受け、中学生になると蔵の中でバンド練習に熱中し、高校になるとフォークグループを作り、アマチュアコンサートにも出たりしていました。

◆ 音楽から山はどう繋がったのですか？

一 音大には行かなかったものの、音楽活動は東京へ出て続けました。79年にビクターレコードからプログレッシブロックバンドとしてデビューしましたが、売れなくて挫折することになりました。

30才くらいになっていましたが、音楽をや

めた頃、山へ行ってみようと思立ったので
す。秋、葉原のニッピンに行つて靴とザックを
買、一で伊豆ヶ岳に行つたのです。とこ
ろがさっぱり面白くない。ではもつと有名な
山へ行つてみよう、八ヶ岳に行きました。
美濃戸から赤岳を登り、真教時尾根を下りま
した。死にそうに大変でした。でも、頂上付
近の岩場の楽しさが心に残り、もつとたくさ
ん岩のある山へ行こうと、奥穂高から西穂高
を目指しました。結局岳沢へ下りましたが、
これがとても楽しかったのです。
岩登りだけをやろうと思ひ、都岳連の岩登
り講習会に参加しました。2回の机上と3回
の外岩講習でした。1回目が丹沢モミソ岩、
2回目が三つ峠、3回目が小川山屋根岩二峰
南稜でした。美しいダイヤモンドスラブを登
りたいと思ひましたが、この日は登らせても
らえず、内容に不満を感じ、もつと面白いと
ころを登りたいと思ひました。この後1年ほ
ど、友人を巻き込み、沢やゲレンデなど、今
思うとよく事故を起こさなかつたと思ひま
す。無謀なことをしていました。本も読みま
く、頭でっかちにもなりつつありました。

◆ 転機となった山は？

- 1年後に友人を都岳連の講習会に行かせたと
ころ、講師にJMCCの宮崎秀夫さんがいて、
その縁でJMCCに入りました。35才くらいで
したが、フリーターだったので、ヨセミテに
3ヶ月ほど行きました。この頃、アイスクラ
イミングはやりましたが、時代がフリーへと
変わっていたと思ひます。行く前は10b程だ
ったのが、帰るころには11Cが登れるよう
なっていました。
帰国して、山と溪谷社にバイトで入り、「岩
と雪」のレイアウトから始まり、編集にも関
わるようになりました。
この間、JMCCで屏風岩下部にルートを開

拓したり、人工ルートフリー化をしたり、とりわけ、小川山の自由な雰囲気の中でのクライミングは楽しかったですね。

◆ 現在に至までのクライミングの活動を聞かせてください。

— 仕事でもあった訳ですが、面白い岩があれば、全国あちこちに行き、新ルートを作りました。気がついたら30くらいの県でルートを開いていたので、どうせなら47都道府県全部をやってみようかと思ったのです。45才くらいで思い立ってから、結局終わったのが、昨年還暦になってからです、長かったですね。最後は神奈川県でした。還暦記念で、誕生日に小川山のそら豆下部に「カンレキッド」というルートを作りしました。グレードも6（アメリカ Decimal グレード 5.6）です。そして、この間、第二のプログレッシブ・ロックブームが来たこともあって、音楽活動も再開しました。現在も平行してやっています。

◆ 日本フリークライミング協会（JFA）との関わりはいつから？

— 1989年に設立された当初からです。ジャパンツアー（競技大会）を立ち上げ、2004年までシリーズ戦として開催してきました。第3回のジャパンカップ（日本山岳協会主催）で優勝し、ヨーロッパの大会に出場し、ウォールにしても、照明にしても、センスがまるで違い、その運営の素晴らしさに感心したのです。最近ではクライミングジムの増加に伴い、自然の岩場でも人が増える傾向なので、駐車場の問題やトイレの問題、岩に残るチョークの問題などの環境の改善が急務となってきて、JFAは、アクセス問題に取り組むことが活動の中心となってきました。

そんなこともあって J F A 主催であった日本選手権、日本ユース選手権は今年から日山協の主催に変わりました。

◆ 現状の山やクライミングをめぐる状況について思うことはありますか？

— アルパインのクライマーが少ないように思いまく訳で、フリークライマーも、外岩をやる人、インドアのコンペ派、などに分化しています。昔の山岳会時代のいわゆる「本チャン」というのは消えて行ってしまいました。一方でガイドと縦走をしたり、クラシックルートを登ったりする人は増えています。外岩のフリークライマーは増えそうです。アクセシブルな問題はますます重要になって来るとでしょう。あ・うん感覚で利用が続いているゲレンデもありますが、私有地内の岩場で新ルートを開いたりするならば、手続きを踏む必要があるでしょう。自分自身は、また新しい企画を考えて、クライミングに面白く関わって行きたいと思っています。

◆ ロッククライマーでロックミュージシャン、といた異端児風な北山さんですが、楽しかったから登り続けました。至って素直な山ヤさんの自然の中でボルダーでは、チョークの跡も掃除して帰ろうというフリークライマーの環境意識を見習いたいと思いました。オフレコ含め、楽しいお話をたくさんありがとうございました。